

高島市無形民俗文化財 竹馬祭

子ども版 七川祭

清水山城下の集落である今市区の佐々木神社では、5月3日に竹馬祭が行われています。この祭は、5月4日の大荒比古神社の例祭である七川祭の子ども版ともいわれており、15歳ぐらいまでの子どもたちが主体で神事を行う例祭で、高島市無形民俗文化財に指定されています。



やぶさめの流鏝馬のようす

れ、宝永3年（1706年）と文政12年（1829年）に改築が行われました。現在の社殿は、昭和11年（1936年）に再建されたものです。

4月3日、その年の流鏝馬当番の子どもたちが、行事の無事を願って神社へ参拝します。それから作法や順序の練習を始め、5月2日の宵宮には、本祭りと同様に正装で参拝と流鏝馬の奉納を行います。竹馬祭当日、紺の着物に陣笠をかぶり、背には家紋などを染め抜いた旗指物をして、馬に見立てた竹馬にまたがり本馬場・横馬場を駆け回ります。この行事の一連の流れは七川祭とよく似ており、異なるのは主役が子どもたちで、生きた馬が竹馬になっているということです。使用する竹馬は、20cmほどの桐の木で作られた頭に芋を黒く染めたたてがみと手綱をつけ、子どもの体に合わせた竹の棒で胴を作り、できあがった竹馬

を首からかけてまたがり流鏝馬を奉納します。

竹馬祭のはじまり

竹馬祭の起源について、はっきりとは分かっていませんが、鎌倉時代に高島郡田中郷の地頭であった佐々木 高信が大荒比古神社の社殿を改築したときに競馬を奉納したのを、子どもたちがまねて遊んだことで伝えられたと考えられています。また一説には、織田信長との戦いの際に清水山城から男衆が出払ってしまったため、残った女性と子どもたちが竹馬にまたがってぐるぐると回ることによって、清水山城にまだ兵が残っていると見せかけて敵を追い払ったことに始まるともいわれています。

また、隣の辻沢区でも5月5日の子どもの日に竹馬祭が行われます。

現在の竹馬祭

竹馬祭の参加者は減少傾向にあるものの、地域の方々によって今日まで続けられています。ぜひ、

迫力満点な七川祭だけでなく、竹馬祭のかわいらしい子どもたちの勇姿もご覧になってみてはいかがでしょうか。

文化財課 ☎ (25) 85559



佐々木神社

編集感

新しいコトが動き出す4月。毎年4月になると、1年間ってあっという間だなあと感じます。年を重ねるたびに、月日が経つのがどんどん早く感じますが、この現象を心理学的に「ジャンーの法則」と説明されているそうです。つまり、これから時間のスピードは増すばかり、、、ひえ～!

猛スピードで過ぎていく日々をただ流されるだけでなく、本年度は積極的に新たな挑戦をすることを目標に充実した日々を過ごせるよう、がんばろうと思います! (Y.H)



広報たかしま

令和2年

4

月号 No.243

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
TEL:0740-222222 滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takahima.lg.jp
t:info@city.takahima.lg.jp